

## 春の気配

己が脚を鋸でひき  
赤い血のしたたる切り口を

既に日は没し、薄暗い夕刻  
人々は温かな食卓へと急ぐ

私は街角に立ちつくし  
ヘラヘラ笑ってその傷口を

人々は目をそむけるかと思いきや  
興味津々のぞき込む

ぼつりぼつりと灯りも点り  
そろそろみんなあくびをしだす

(1985.2.23)